



2024年度交通重点政策意見交換会 その①

JR九州労組の政策課題への理解浸透を図る

JR九州労組はJR連合・JR九州労組の政策課題に対する理解浸透と、地方議会での質問等を通じた行政での解決を目的に、九州各県で毎年開催している「交通重点政策意見交換会」を今年度もスタートした。

意見交換会では、JR九州労組側より「持続可能な交通体系の確立と維持・発展に向けた取り組みの推進」や「JR九州におけるローカル線の状況について」などの課題を提起し、その後各参加者より意見や質問を自由に出していただき、各箇所において活発な意見交換が実施できている。

長崎地区 2024年1月13日（土）出席者34人

2024年4月から自動車運転業務の年間時間外労働時間の上限が960時間に制限され、自動車運転者の労働時間が短くなることで従来と同様に物が運べなくなる『2024年問題』に対し、国はモーダルシフトとして自動車輸送を鉄道や船舶を利用することを推進している。長崎地区では、この物流の課題について多く意見が出された。（新幹線を利用した貨物輸送、長崎本線での貨物列車増発の実現性、貨物列車への積み下ろし時間を短縮するためのパレット利用など）また西九州新幹線の未合意区間については、国主導で協議を前に進めていくよう、各々の立場で働きかけをしていきたいとの声が出された。



【参加された主な方】

連合長崎：岩永洋一事務局長、種村和久副事務局長／長崎県交運労協：山口誠治事務局長／衆議院議員：西岡秀子議員、山田勝彦議員／長崎県議会議員：深堀浩議員、饗庭敦子議員、山田朋子議員／長崎市議会議員：木森俊也議員／時津町議会議員：山口一三議員

大分地区 2024年1月21日（日）出席者22人

大分地区ではカーボンニュートラルをはじめとした環境に係る質問が多く出され、JR九州労組側からはJR九州で導入している蓄電池電車や蓄電池搭載型ディーゼルハイブリッド車両の紹介などを行った。参加者からはぜひCO2を出さない水素列車の導入を検討して欲しいなどと意見があった。一方JR九州労組側からもパーク&ライドや無人駅の見守りなど県で検討されていた取り組みの進捗について質問がされるなど、自由闊達な意見が飛び交った。また、参加者から、日田彦山線BRTひこぼしライン開業が大分県にとっても明るい話題で、今後も期待しているため動向を注視していきたいとの声があった。



【参加された主な方】

連合大分：藤森雅史事務局長／大分県交運労協：大塚毅議長、宮本勝明事務局長／衆議院議員：吉良州司議員／大分県議会議員：福崎智幸議員／退連大分地区本部：玉井成之会長